



病診連携懇話会

たが、「ご自宅では新たに功しているので、今回も麻痺症状が出てきたため、新たな脳転移発症の可能性を含め、精査加療目的に再入院を依頼しました。

懇親会で病院の主治医と直接話してみると、当初は抗がん剤治療も行わずに自宅での看取りを含めて考えていました。が、再入院直後は患者さん自身の治療への希望が、再度の抗がん剤治療に至るまでに苦労があったことなどを聞けました。それに対しこちらから、在宅医の考えと抗がん剤は以前奏ができていたこと、放射線治療や抗がん剤治療、場合によっては外科的治療など、病院で行うことを選択しなければなりません。

積極的な治療を行わない

「在宅に戻った患者さんが再度病院を頼る際に、医療を行っています。」

「何を病院？」と病院主治医が戸惑わないように、今後このような意見交換を行い、患者さん、病院、我々も満足する形で診療を行なっていきます。

「緩和医療は、家で治療ができること、放射線治療や抗がん剤治療、場合によっては外科的治療など、病院で行うことを選択しなければなりません。」

積極的な治療を行わない

「在宅に戻った患者さんが再度病院を頼る際に、医療を行っています。」

「何を病院？」と病院主治医が戸惑わないように、今後このような意見交換を行い、患者さん、病院、我々も満足する形で診療を行なっていきます。



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
 総合内科専門医・循環器内科医
 ・日本循環器学会専門医
 ・日本内科学会認定医
 ・認知症専門医
 ・認知症サポート医

積極的な治療を行わない

【まつばらホームクリニック】
 ☎ **042-439-1250**
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応: 午前9:00～午後6:00
 ■定休日: 土日(祝日は診療)
 ■訪問地域: 西東京市、東久留米、新座・練馬の一部
 まつばらホームクリニック